

静岡県教育委員会

議事録

令和7年度 第3回定例
5月7日（水）

静岡県教育委員会教育長 池上重弘は、

令和7年5月7日に教育委員会第1回定例会を招集した。

- 1 開催日時 令和7年5月7日（水） 開会 13時30分
閉会 13時48分
- 2 会場 教育委員会議室
- 3 出席者 教 育 長 池 上 重 弘
委 員 伊 東 幸 宏
委 員 小野澤 宏 時
委 員 天 城 真 美
委 員 飯 村 幸 生
委 員 渡 村 マ イ

- 事務局（説明員）
- | | |
|-----------|---------------|
| 前 澤 綾 子 | 教育部長 |
| 小 野 田 秀 生 | 教育監 |
| 山 下 英 作 | 理事（統括・新図書館担当） |
| 中 山 雄 二 | 参事（学校教育担当） |
| 金 嶋 克 年 | 参事兼新図書館整備課長 |
| 高 林 伸 成 | 教育総務課長 |
| 白 土 達 夫 | 教育政策課長 |
| 櫻 井 澄 人 | 教育DX推進課長 |
| 上 原 啓 克 | 財務課長 |
| 鈴 木 憲 昭 | 教育厚生課長 |
| 横 田 恭 子 | 教育施設課長 |
| 秋 野 薫 | 義務教育課長 |
| 中 村 大 輔 | 高校教育課長 |
| 山 村 仁 | 特別支援教育課長 |
| 夏 目 伸 二 | 健康体育課長 |
| 小 竹 啓 功 | 社会教育課長 |
| 植 松 博 | 静岡教育事務所長 |
| 菅 沼 晃 | 静岡西教育事務所長 |
| 持 山 育 央 | 総合教育センター所長 |
| 高 橋 健 二 | 中央図書館長 |

4 その他

(1) 報告事項は了承された。

【開 会】

- 教 育 長： ただ今より、教育委員会定例会を開催する。
今回の議事録の署名は、私のほか、渡村委員にお願いする。
- 教 育 長： それでは審議を始める。

報告事項1 北駿地区グランドデザイン

教 育 長： 報告事項1「北駿地区グランドデザイン」について中村高校教育課長より説明願う。

高校教育課長： <報告事項について説明>

教 育 長： これまでの経験で、地域協議会は6回程度の議論でグランドデザインを固めるというパターンが多かったが、北駿地区については、参加者、とりわけ参加している首長の御発言もあり、第2回までの発言を受けて第3回の際、踏み込んだ内容の案を説明した。そこでの議論を踏まえて第4回にあたる4月下旬の段階で、このグランドデザイン案を提示し、皆さんから意見をいただいた上でグランドデザインとした。文言の修正はなかったが、それぞれの想いを巡って伺うことができた。それを踏まえ、具現化に向けて、スピード感を持って対応していきたいと考えている。質疑等はあるか。

飯 村 委 員： グランドデザインの課題認識の中で、VUCA、Society5.0などと記載があるが、VUCAは一般的に認知される場所であるが、Society5.0は、2021年頃にバックアップされなくなると認識しているが、まだアクティブであるのか。

高校教育課長： これまで示していく中で、特に議論はなかったところである。

飯 村 委 員： Society5.0という言葉がまだ生きているのか、それともデジタルトランスフォーメーションとか現在の潮流を書いた方がいいのかよく考えた方がいいのではないか。おそらくSociety5.0と書いて分かる人は少ないのではないか。Society5.0は2020年までの時限で、2021年に一度内容のアナウンスがあり、それ以降アップデートされていないのではないか。

教 育 長： 公的な政府見解としてはおっしゃるとおりかもしれないが、教育の分野では、比較的Society5.0及びその言葉の示す社会の在り方というのは様々な資料で出てくるので、教育の分野でこれが死語になったという理解ではない。

飯 村 委 員： 現在でも認知されて、共通語として、教育の分野の中で使用できるということか。

教 育 長： 教育が遅れているのかもしれないが、比較的目にはすることはある。

飯 村 委 員： Society5.0は、Industry4.0に対抗して、2019年頃に作ったものでバックアップされていないのではないか。産業界ではSociety5.0については取り上げられていない。教育の中で使用されているのであればいいと思うが、若干下火という気がするので、AIであるとかデジタルトランスフォーメーションであるとか、もっと直近のワードがあるような気がするが、Society5.0は全体を表しているのので、どういう世界にするかというのはわかりやすいとは思いますが、VUCAを出しているのので、VUCAに対する対応はどうなるのかなどと考えると、言葉をよく調べた方が良くはないかと思った。

教 育 部 長： 自身の認識であるが、Society5.0は、狩猟社会、農耕社会、工業社

会、情報社会に続く新しい社会である。確かに、何年か前に提唱されたが、このコンセプト自体が無くなったというわけではない。その中身としてAIやデジタルツインなどが出てくるが、この言葉自体は社会の在り方そのものを表している。

飯村委員： そうである。コンセプトが世の中に合うようアップデートされていればよい。AIなどはコンピューターやクラウドの世界で、Society5.0より前に定義されている。Society5.0はそういったものと融和した社会である。

教育部長： AIなどは要素である。社会全体と要素の関係であり、要素の方はどんどんアップデートされていくものである。

飯村委員： 非常に広い概念で、狩猟時代などの時代の枠であるので、それを展開するのは具体性がなくなかなか難しい。全体とすると、戦略であって、戦術が展開されていない。次の社会にどう向かっていくかの戦略はあるが、戦術の方がバックアップされておらず、経済産業省はあまり力を入れていないのではないか。

教育部長： 経済産業省を含めた科学技術政策のキャッチフレーズでもあったので、まだ生きてると認識している。経済産業省は色々なキャッチフレーズを次々と提示しているので、そういう意味では、廃れたものに入るとも考えられる。

飯村委員： 生きているレベルであるのか、トップラインのレベルにあるのか、議論した方がいいのではないか。これは2020年に一回クローズしていて、2021年にもう一度動画を出している。2020年に一回5年期限でやっている。

教育部長： それはおそらく科学技術・イノベーション基本計画に合わせているからである。

飯村委員： Society5.0の社会の区分からやる方向性が、あまりバックアップされていないのではないか。あのときは、Industry4.0にどう対抗するかでIndustry4.0と違う切り口で入るようにしたものであり、そのままトーンダウンしているのではないかと、産業界では思っている。

教育部長： まず大前提として、「課題・認識全県」という部分に書いている文言及び「高校改革の基本認識・全県」に書いている文言は、今回のグランドデザインだけに出てきた文言ではなく、これ以前に出てきた基本計画の文言であるということ。したがって基本計画の議論をしたときに使われていたものであるということ。それから、先程申し上げたように教育の分野において、Society5.0は何かという厳密な議論というよりむしろ、これまでの情報化社会を更にモノと情報が結びつくIoTのようなこれまでとは違う社会の在り方になっていくという、ここで言う変化の激しい時代を象徴する言葉として、VUCAやSociety5.0という当時の人口に膾炙した言葉が使われているという御理解をいただく方が良いのではないか。

飯村委員： VUCAと並列して変化の激しい社会であることを象徴する言葉として、

Society5.0をイメージとして使う。特に具体的な展開と北駿地区グラウンドデザインが絡んで施策が出てくるものではないという認識であれば、それで良い。

教 育 長： あくまでもジェネラルな社会の動向、情勢についての大まかな理解をする上で、今までのように皆が真面目に働いていれば豊かになるという時代ではない中で、今、どのような人材育成が必要だろうかというところにつなげていくためのいわばバックグラウンドとして、社会のイメージとして使っていることである。

飯 村 委 員： 官公庁が出すトピックやアイキャッチなどもどんどん変わっていくので、使用するのであればサポートされているかされていないのかをよく確認した方が良いでしょう。

教 育 部 長： そういう意味では最新の第6次科学技術・イノベーション基本計画でも Society5.0 という言葉は生きているところであるので、問題ない。

飯 村 委 員： そうである。これをタクティクスに展開するということになる、多分難しくなる。

教 育 長： その意味ではタクティクスに展開するためのキーワードには位置づけていない。変化の激しい、流動的な時代を表わす言葉としてあくまでも例示的に引っ張ってきているものである。

飯 村 委 員： 承知した。

教 育 長： 他に質疑はあるか。

伊 東 委 員： グラウンドデザインの中にある、「連携する研究機関等」とは、具体的にどのような機関を想定しているか。

高校教育課長： 議論の中で具体的な研究機関の名前は出ている訳ではないが、裾野や御殿場の地域を見渡すと、例えばトヨタや、キャノン研究所のほか、御殿場市にも幾つかの研究機関があるので、このあたりをイメージしている。

伊 東 委 員： 承知した。

教 育 長： 地域協議会におけるグラウンドデザインは、地域協議会を始める際、どこの学校とどこの学校を統合しますという議論をする場ではなく、あくまでもその地域の将来の学びの在り方について関係する方々と個別ではなく、一堂に会して、比喻であるが「皆で一つの丘に登って未来の地平を見ましょう。」という話をしている。その観点からいくと、今回の御殿場は異例で、大規模単位制高校というのは裾野、御殿場、御殿場南をベースとして、校地は御殿場南を想定している。本日資料では出していないが、御殿場南を想定する根拠となる資料も皆さんに提示した。また、小山高校は多様な学びを提供する学校を小山をベースに展開することは参加する皆さんも御理解の上でこのグラウンドデザインを共有した。今後のグラウンドデザインがどういう着地点を見いだすかはその地域によって変わると思う。ただ今回、北駿においては、具体的な高校のいわゆる統合の在り方、枠組みや校地まで想定した提案をしたので、場合によってはここまで踏み込むことも今後あり得るかもしれないということも共有

しておく。ただこの後全てのグラウンドデザインがこの形まで踏み込むことではないが、踏み込むこともあるということを補足する。他に質疑等あるか。

全 委 員： （特になし）
教 育 長： 報告事項 1 を了承する。

教 育 長： 以上で、本定例会の議事は全て終了した。

これをもって、令和 7 年度第 3 回教育委員会定例会を閉会とする。